

研究区分	教員特別研究推進（地域振興）
------	----------------

研 究 テーマ	父親のための「子育て手帳」の開発に向けて				
研究組織	代 表 者	所属・職名	短期大学部・教授	氏名	小林 佐知子
	研究協力者	所属・職名	静岡県教育委員会社会教育課 ・教育主幹	氏名	石塚 淳
		所属・職名	静岡県教育委員会社会教育課 ・主事	氏名	三ツ岡 市朗
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	短期大学部・教授	氏名	小林 佐知子

講演題目
父親のための「子育て手帳」の開発に向けて
研究の目的、成果及び今後の展望
【目的】 本研究は、静岡県教育委員会社会教育課と連携し、乳幼児を育てる父親のための「子育て手帳（仮）」を開発するために必要な知見を明らかにすることを目的とした。静岡県では、父親の育児参加を主目的として平成12年に「お父さんの子育て手帳」を作成し、現在も冊子体で配布している。しかし、子育てを巡る社会動向は変化中、内容の古さや使いやすさに難点が生じており、改訂が必要である。本研究では、より効果的な「子育て手帳」の開発につなげていくために、子育て世代の悩みや不安等の実態を主軸に、育児関与量や性別による差異を検討した。 【方法】 乳幼児を育てている父親・母親200名に質問紙調査を行った。インターネット調査会社に依頼し、Web上で実施した。説明文書を読んで同意できる方に参加していただいた。 調査内容は、(1) 家庭教育に関する悩み（日頃の家庭教育をする上での困りごとや不安についての自由記述、(2) 育児関与（「心理的ケア」「しつけ」「家事」の3側面）等であった。 なお、「家庭教育」は広義であるため、文部科学省（2002；2010）を参考に①「基本的な生活習慣・生活リズム」、②「子どもの遊び・体験活動」、③「思いやりや善悪の判断」、④「自立心や自制心」、⑤「社会的マナー」の5側面について尋ねた。 【成果】 調査結果から、家庭教育に関する悩みや不安は51～64%の親にみられた。また、自由記述の計量テキスト分析を通して、家庭教育の5側面について、共起ネットワークの結果をもとにカテゴリー化を行った。例えば①「基本的な生活習慣・生活リズム」に関しては、「画面視聴時間が長いこと」や「就寝時刻が遅いこと」など8つのカテゴリーが得られた。さらに、家庭教育の悩みや不安の有無と育児関与との関連の結果から、育児関与する親ほど悩みや不安が多いことやこの傾向が母親のみに示されたことなどが明らかになった。性別による差異として、母親は生活全体における様々な場面で悩むことに対し父親は限られた場面で悩むという特徴がみられた。 以上の結果を「子育て手帳（仮）」作成メンバーと共有し、手帳改定に向けた資料として提供した。また、結果の一部を日本発達心理学会で発表した。 【今後の展望】 「子育て手帳（仮）」の改訂が進められる中、研究資料をもとに親の実態やニーズに合わせたものになっているかどうか、引き続き検討材料としていく。